

新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム 地域意見交換会

地域の中で世界を感じる

京都経済短期大学 経営情報学科
教学部長 佐藤 健司



1. 京都経済短期大学の概要

- 1993年開学（経営情報学科 300名）
 - 建学の精神
 - ① 経営学の基礎知識をベースに情報処理能力と経営能力を身に付けた人材。
 - ② 国際社会に意識を広げることのできる幅のある人間的教養の涵養。
- ⇒ 全学生の約2割は留学生

2. 京都経済短大の教育目標と 学生支援プログラム

- トータルな基礎力の育成
: 基本的な学力及び社会性の修得

様々な人々との交流機会創出

- 異世代交流
(地域社会人・子ども、企業と連携)
- 異文化交流(留学生と国内学生)
⇒この分野を特化したプログラム

3. 留学生関連行事の発展



留学生
語学講座

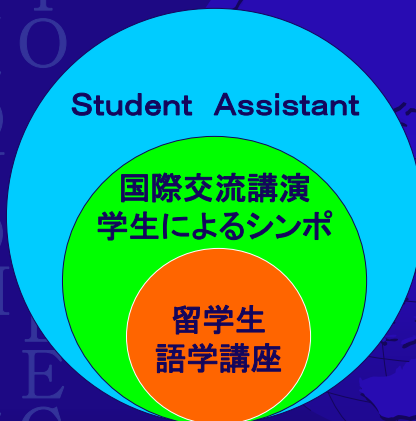
- 留学生が自信を持つ
体験
- 地域住民による教育

3. 留学生関連行事の発展



- 偏見・思い込みを払拭

3. 留学生関連行事の発展



- 留学生・国内生の継続交流
- 国内学生が自信を持つ体験

4. 本学の国際交流教育

- カリキュラム
(「異文化体験論」、Student Assistant)
- 留学生が活躍する場の設定
(語学講座、国際講演会、シンポジウム)
- 留学生支援
(奨学金と教学との連携)
: 留学生のモチベーション・アップ

5. 学内における国際化

- 短期大学では留学機会の提供は困難
- 全学生の2割を占める留学生の活用



国際社会を当然のものとする土壌を
学生時代に育成する。

- ① 実際に交流する体験を重ねる
- ② 異文化を理解する知識の提供

6. プログラム内容

(1) けいたんから世界を感じる

- 留学生交流会を充実させた講演会やシンポジウム、文化交流を連続で行う
- 国内学生の参加率をあげ、国際理解を深める
- 教学内容(経営学・情報学・語学)との連携



6. プログラム内容

(1) けいたんから世界を感じる

3/2	シンポジウム「異国で学ぶ意義」
4/1	国際交流講演会
5/15	国際ビジネスプランシンポジウム
6/12	国際社会と情報
7/10	講演会「国際コミュニケーションの意義」
10月	国際映画上映会
10/25	けいたん留学生交流会
11/13	学生企画「国際交流促進企画」

6. プログラム内容

(1) けいたんから世界を感じる

国際ビジネスプランシンポジウム

- 1) 実務家による講演会
- 2) 学生によるビジネスプラン I
- 3) 学生によるビジネスプラン II
- 4) 実務家による講評
- 5) パネルディスカッション

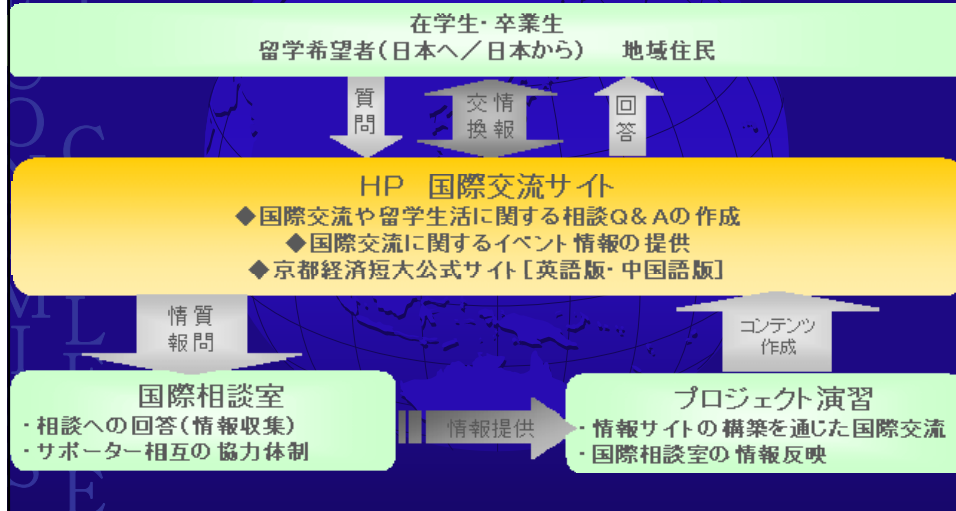
6. プログラム内容

(2) 国際相談室の開設

- ピアサポートの場
- 留学生と国内学生の
情報交換の場
- 他大学の国際
センターと連携



6. プログラム内容 (3) HP国際交流サイトの開設



6. プログラム内容 (4) ネパール教育支援活動

- ・実践を通じてNPOのマネジメントを学ぶ
- ・地域の小・中学校との連携を深めることが可能に
⇒ 地域にしながら国際交流



7. 本プログラムの独自性

- (1) 留学生を単にサポートの対象と捉えるのではなく、「大学を活性化させるエネルギー源」
- (2) 地域住民や他大学学生と連携し、学生の社会化を図る。

8. 本プログラムの有効性

- 異世代・異文化交流を通じて社会性を身に付ける
- 活動に参加することによって自信をつける
- 地域にしながら国際社会を感じられる機会を提供できる
- 学内に第三者の視点が入ることによって、FD・SDの推進につながる

9. 関係者の反応

- 教職員
 - ・ これまでの取組が評価されたことにより、自信が深まる。
- 学生
 - ・ 国際交流の重要性を第三者とのかかわりの中で再認識する。
- 地域社会
 - ・ 多様なきっかけ(語学講座、国際交流会等)を通じてネットワークが広がる。

10. 苦労とその克服過程

- 学内構成員の温度差
 - ＜苦労＞ これまで...取組や意識が個別的
 - ＜克服＞ 「それぞれの取組を知ろう」運動を展開中 ⇒ 資源の有効活用
- 短大の制約と可能性の模索
 - ＜苦労＞ 小規模校ならではの悩み
 - ＜克服＞ 手作り感の再認識
 - ⇒ 皆でアイデアを出していく喜びを知る